

おかげさまで本年度も連載継続となりました。4年目に突入し、とてもうれしいです。これまでに、桜の花が咲くシユロの木、セミの羽化、京都に存在するバナナの仲間の植物などを紹介してきましたが、その裏にはいつも、珍しい植物を探したり、セミの幼虫を捕まえたり、といった取材があります。記事を書くのは月に1回なのですが、四六時中「これは記事になるかな?」と考えるようになり、私自身が普段見逃していた自然の不思議や面白さに気づくことができ

③ 「つかみ」と導入



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

るようになっていきます。「意識は知識」ですね。本年度も頑張ります。



元小学校教員で元芸人である経歴を生かして、今は、大学教員として「エデュテイメント」を実践しています。お笑いの世界と教育の世界にはたくさん共通項があります。例

先生も芸人も話術がポイント

えは、お笑いの世界の「つかみ」は、教育の世界では授業の「導入」になります。お笑い芸人が「つかみ」で笑ってもらうことで、「この面白いなあ」とお客さんが興味関心をもち、笑ってもらいやすい環境づくりができます。同様に、授業のはじめの活動である「導入」で興味のある事物・現象を見せることで、「この授業は楽しそうだなあ」と子ども達が興味関心をもち、学びやすい環境づくりができます。

小学校教員になり、指導案を作成する機会がたくさんありました。指導案とは、授業の台本のことで、子ども達の反応を想像しながら作成する必要があります。その指導案づくりでは、お客さんの反応を想像しながら作成するネタ台本づくりのスキルが生かされました。

小学校教員になり、指導案を作成する機会がたくさんありました。指導案とは、授業の台本のことで、子ども達の反応を想像しながら作成する必要があります。その指導案づくりでは、お客さんの反応を想像しながら作成するネタ台本づくりのスキルが生かされました。



ポイントとは話術。芸人は常にお客さんの様子を見ながら、話すテンポやネタを修正するように、学校の先生も常に子ども達の様子を見ながら話すテンポや授業展開、説明を修正していきます。

そのスキルが漫才大会での教育者コンビの活躍の要因の一つです。M-1グランプリに挑戦する教育者がたくさんいることは、とてもうれしいです。このように教育とお笑いにはたくさん共通項があり、相互に生かすことができます。エデュテイメント【edutainment】とは教育【education】と娯楽【entertainment】を合わせた造語でその相互の良さを生かす、すてきな教育手法です。本コラムでは、エデュテイメントをテーマに面白い科学の現象や実践を紹介していきたいと思